

安全データシート

作成: 2010年 8月 1日

改訂: 2023年 3月28日

1. 製品及び会社情報

整理番号	: KF097-07
製品名	: デビュー乳剤
会社名	: クミアイ化学工業株式会社
住所	: 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門	: サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号	: 03-3822-5180
FAX番号	: 03-3823-6830
緊急連絡先	: 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途及び使用上の制限	: 農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分4
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分1
	発がん性	: 区分2
	生殖毒性	: 区分1B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2(肝臓)
	誤えん有害性	: 区分1
	環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)		: 区分2

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有害
- ・飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- ・皮膚刺激
- ・重篤な眼の損傷
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・発がんのおそれの疑い
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露(経口)による臓器(肝臓)の障害のおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- ・環境への放出を避けること。

【応急処置】

- ・飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名／一般名：4-(4-クロロフェニル)-2-フェニル-2-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イルメチル)ブタンニトリル／一般名：フェンブコナゾール

成分及び含有量：フェンブコナゾール	12.5%
<その他> N-メチル-2-ピロリドン	15.0%
メチルナフタレン	18.0%
ロジン	≥10- < 20%
ナフタレン	6.5%
トリメチルベンゼン	1.3%
ソルベント ナフサ	R

官報公示整理番号：化審法・安衛法

8-(3)-1397	フェンブコナゾール
5-113	N-メチル-2-ピロリドン
8-(1)-1014	
8-(1)-1013	
4-80	メチルナフタレン
4-311	ナフタレン
3-7	トリメチルベンゼン
3-3427	
9-1691	ソルベント ナフサ

CAS No.:	114369-43-6	／	フェンブコナゾール
	872-50-4	／	N-メチル-2-ピロリドン
	1321-94-4	／	メチルナフタレン
	8050-09-7	／	ロジン
	91-20-3	／	ナフタレン
	25551-13-7	／	トリメチルベンゼン
	64742-94-5	／	ソルベント ナフサ

4. 応急措置

吸入した場合:新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

呼吸困難の場合は、有資格者が酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合:汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で15~20分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

作業場内に適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

眼に入った場合:直ちに30分以上流水で洗顔し続ける。5分洗顔してからコンタクトレンズをはずして、また洗い続ける。迅速に医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。

すぐに使用できる適切な緊急用洗顔設備を設置すること。

飲み込んだ場合:中毒情報センターに連絡するか直ちに医師の診察を受ける。

可能なら一杯の水を少しずつ飲ませる。医師の指示がない限り吐かせない。

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:知見なし。

医師に対する特別な注意事項:呼吸器感作性、または喘息様症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬が有用であると思われる。

β 2 作用薬の吸入と、経口もしくは非経口のグルココステロイド剤で気管支痙攣を治療する。

患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。

眼の化学熱傷は更なる洗浄が必要になることもある。直ちに医師(可能であれば眼科医)の診察を受ける。

熱傷を負っている場合は、除染ののち、熱による熱傷と同じように治療する。

特別な解毒剤はない。

ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

過剰暴露すると、喘息をはじめとする既存の呼吸障害(気腫、気管支炎、反応性気道機能不全症候群)を悪化させることがある。皮膚接触により既存の皮膚炎が悪化することがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素(CO₂)、粉末消火剤

使ってはならない消火剤: 知見なし。

特有の危険有害性: 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。

火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

有害燃焼副産物: 火災時の煙には、元の物資に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。

燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない:

窒素酸化物(NO_x)

炭素酸化物

特有の消火方法: 汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。

火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。

安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。

区域から退避させること。

現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。

未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。

火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。

消火を行う者の保護: 火災時には、自給式呼吸器を着用する。

保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 十分な換気を確保する。

保護具を使用する。

適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項: 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。

環境への放出は必ず避けなければならない。

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。

広範囲に広まるのを防ぐ(封じ込めまたはオイルバリアなどによる)。

汚染された洗浄水を保管し、処分する。

流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 適切な吸収剤を使って流出の残余物を除去する。

本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。

大規模な流出の場合は、物質が広がらないように、堤防で囲うか、他の適切な封じ込めを行う。

堤防で囲った物質をポンプで汲み出せるのであれば、回収物質は、ベント付き容器に保管すること。

漏洩物質が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が浸入しないようにすること。

廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

吸収材(例:布、フリース)で拭き取る。

不活性の吸収材(例えば、砂、シリカゲル、酸性結合剤、汎用結合剤、おがくず)で吸収させる。

追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

局所排気, 全体換気: 局所換気を行い使用する。

安全取扱注意事項: 取扱い中のこぼれを防止するには、金属製のトレイにボトルを載せておく。

作業室の換気や排気を十分に行う。

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。

曝露を避ける一使用前に特別指示を受ける。

作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。

皮膚や衣服に付けない。

蒸気やスプレーミストを吸い込まない。

飲み込まない。

眼との接触を避ける。

容器を密閉しておくこと。

漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。

適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

接触回避: 強酸

強塩基類

保管

安全な保管条件: 密閉容器に保管すること。

一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。

適切なラベルのついた容器に入れておく。

各国の規定に従って保管する。

混触禁止物質: 強酸化剤

有機過酸化物

爆発物

ガス

安全な容器包装材料: 適さない材質: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

ソルベント ナフサ(総炭化水素蒸気) 200 mg/ m³(TWA) ACGIH

ソルベント ナフサ 100 mg/ m³(TWA) Corteva OEL

ソルベント ナフサ 300 mg/ m³(STEL) Corteva OEL

N-メチルー2-ピロリドン 1 ppm , 4 mg/ m³(OEL-M) 日本産業衛生学会

詳細情報:経皮吸収

メチルナフタレン 0.5 ppm(TWA) ACGIH

ロジン(総樹脂酸) 0.001 mg/ m³(TWA)(吸入濃度) ACGIH

ナフタレン 10 ppm(ACL) 安衛法(管理濃度)

ナフタレン 10 ppm(TWA) Dow IHG

ナフタレン 15 ppm(STEL) Dow IHG

ナフタレン 10 ppm(TWA) ACGIH

トリメチルベンゼン 25 ppm , 120 mg/ m³(OEL-M) 日本産業衛生学会

トリメチルベンゼン 10 ppm(TWA) ACGIH

生物学的職業暴露限度:N-メチルー2-ピロリドン

対象物質:5-ヒドロキシ-N-メチルー2-ピロリドン

生物学的試料:尿

試料採取時期:シフト終了時(暴露停止後できるだけ早く)

許容濃度: 100 mg/l

出典:ACGIH BEI

設備対策:空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具:許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。

許容濃度が未設定の場合、許可された呼吸器用保護具を使用する。

特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。

緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

手の保護具

備考:この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例:ポリエチレン。

エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。スチレン/ブタジエンゴム。許容できる手袋の素材の例:ブチルゴム。塩素化ポリエチレン。天然ゴム(ラテックス)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたは NBR)。ポリ塩化ビニル(PVC またはビニル)。バイトン。注意:特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、

作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具: ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 黄色澄明可乳化油状液体
臭い	: 臭いのデータなし
臭いのしきい(閾)値	: データなし
pH	: データなし
融点/範囲	: 液体には該当しない
凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: 96°C 方法: 密閉式、密閉式引火点試験
自然発火点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限及び爆発限界上限界/可燃範囲	: データなし
相対ガス密度	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.048 g/cm ³
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし
爆発特性	: データなし
酸化特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	: 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	: 推奨保管条件下では安定。

	特に言及すべき危害要因はない。
	爆発性の粉じん混合気を形成することがある。
避けるべき条件	: 知見なし。
混触危険物質	: 強酸 強塩基類
危険有害な分解生成物	: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 窒素酸化物(NO_x) 炭素酸化物

11. 有害性情報

製品:

急性毒性(経口): LD_{50} (ラット) > 300- < 2,000 mg/kg

急性毒性(経皮): LD_{50} (ラット) > 2,000 mg/kg

症状: この濃度では死に至らない。

この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

急性毒性(経口): LD_{50} (ラット) > 2,000 mg/kg

急性毒性(吸入): LC_{50} (ラット) > 2.10 mg/l (4時間) 粉じん/ミスト

この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

症状: この濃度では死に至らない。

備考: 到達可能な最高濃度。

急性毒性(経皮): LD_{50} (ラット) > 5,000 mg/kg

症状: この濃度では死に至らない。

ソルベントナフサ:

急性毒性(経口): LD_{50} (ラット) > 5,000 mg/kg

急性毒性(吸入): 備考: 長期間、ミストに過剰暴露すると有害影響を起こすことがある。

過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。

過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる; めまいおよび眠気が認められることがある。

LC₅₀ (ラット) > 4.8 mg/l (4時間)粉じん/ミスト
この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

LC₅₀ (ラット) > 0.2 mg/l (4時間)蒸気
症状:飽和状態での暴露による死亡は認められなかった。
この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ウサギ) > 2,000 mg/kg
この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。
備考:類似物質について

N-メチルー2-ピロリドン:

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット) 4,150 mg/kg
方法:OECD 試験ガイドライン 401

急性毒性(吸入):LC₅₀ (ラット) > 5.1 mg/l (4時間)粉じん/ミスト
方法:OECD 試験ガイドライン 403
症状:この濃度では死に至らない。

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ラット) > 5,000 mg/kg
方法:OECD 試験ガイドライン 402

メチルナフタレン:

1-メチルナフタレン:

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット) 1,840 mg/kg
急性毒性(経皮):LDLo (ウサギ) 7,500 mg/kg

2-メチルナフタレン:

急性毒性(経口):備考:誤飲した場合、弱い毒性を示す。

通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。

LD₅₀ (ラット) 1,630 mg/kg

ロジン:

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット) > 5,000 mg/kg

LD₅₀ (マウス) 4,100 mg/kg

LD₅₀ (ラット) 2,800 mg/kg

急性毒性(吸入):備考:加熱された物質から発生した蒸気により、有害影響を起こすことがある。

粉塵は上部呼吸器官(鼻や喉)を刺激するかもしれない。

咳、胸苦しさや胸の不快感、呼吸困難等の症状が生じることがある。

LC₅₀ (ラット) 1.5 mg/l (6時間)粉じん/ミスト

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ラット) > 2,000 mg/kg

症状:この濃度では死に至らない。

この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

ナフタレン:

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット) > 2,000 mg/kg

致死量(ヒト) 5-15g

方法:推定値。

備考:過剰暴露によって溶血を引き起こすことがあり、従って血液の酸素運搬機能が低下する。

ヒトがナフタレンを経口摂取すると、溶血性貧血が起こった。

誤飲による毒性は、動物よりもヒトの方が強いかもしれない。

ヒトでは、以下の症状が認められることがある:

意識混濁。

倦怠感。

筋攣縮あるいは痙攣

痙攣。

昏睡。

急性毒性(吸入):備考:過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)に刺激作用を来すことがある。

過剰暴露すると、肺障害を来すことがある。

過剰暴露による徴候および症状は以下を含む:

頭痛。

意識混濁。

発汗。

吐き気や嘔吐。

LC₅₀ (ラット) > 0.41 mg/l (4時間)蒸気

症状:LC₅₀ 値は、到達可能な最高濃度よりも大きい。

この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ラット) > 2,500 mg/kg

備考:ヒトの症例報告は、特に子供で、有毒量のナフタレンが経皮吸収されることがあることを示している。

LD₅₀ (ウサギ) > 2,500 mg/kg

トリメチルベンゼン:

1, 2, 4-トリメチルベンゼン

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット) > 3,400 mg/kg

急性毒性(吸入):備考:長期間過剰暴露すると、重篤な有害影響を起こすことがあり、死に至ることもある。

過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。

中枢神経系に影響することがある。

過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる;めまいおよび眠気が認められることがある。

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ウサギ) > 3,160 mg/kg

この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン

急性毒性(経口):LD₅₀ (ラット, ♂) 6,000 mg/kg

急性毒性(吸入):LC₅₀ (ラット) > 10.2 mg/l (4時間)蒸気

この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。

備考:蒸気は上気道(鼻と喉)を刺激することがある。

急性毒性(経皮):LD₅₀ (ラット) > 3,440 mg/kg

症状:この濃度では死に至らない。

この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

皮膚腐食性/刺激性

製品:

皮膚刺激性

成分:

N-メチル-2-ピロリドン:

ウサギ:皮膚刺激性

ロジン:

皮膚刺激性なし

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

皮膚刺激性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

製品:

腐食性

成分:

N-メチル-2-ピロリドン:

ウサギ:眼への刺激

ロジン:

眼への刺激なし

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

眼への刺激

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

モルモット:皮膚感作性なし。

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

モルモット:皮膚感作性なし。

ソルベントナフサ:

備考:類似物質についてヒトでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

備考:呼吸器感作性:関連のあるデータは得られていない。

N-メチル-2-ピロリドン:

モルモット:皮膚感作性なし。

ロジン:

皮膚感作性なし。

備考:マウスに接触アレルギーの可能性は認められなかった。

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。皮膚接触により、過敏な人では感作が起こることがある。

備考:呼吸器を過敏化させない。

頻度は低いがアレルギー性呼吸反応を示すことがある。

ナフタレン:

皮膚感作性なし。

備考:一部の人では皮膚接触によりアレルギー性皮膚反応を示すことがある。

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

備考:呼吸器感作性:関連のあるデータは得られていない。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

皮膚感作性なし。

備考:モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

備考:呼吸器感作性:関連のあるデータは得られていない。

生殖細胞変異原性

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

ソルベント ナフサ:

In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

N-メチル-2-ピロリドン:

In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

2-メチルナフタレン:

In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。

ナフタレン:

In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。

トリメチルベンゼン:

In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

発がん性

成分:

フェンブコナゾール (ISO):

実験動物で発がん性が認められた。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。

ソルベントナフサ:

動物実験において発がん性の限定的な証拠がある

いくつかの試験動物で発がん性のあったナフタレンを含有。ヒトでは、ナフタレン製造に関わる作業員に、発がん性に関する限定的な証拠が認められる。ラットを対象にした限定的な経口投与試験の結果は陰性であった。

N-メチル-2-ピロリドン:

動物試験では発がん性はなかった。

2-メチルナフタレン:

入手可能なデータは、発がん性を評価するのに十分ではない。

ロジン:

動物試験では発がん性はなかった。

ナフタレン:

動物実験において発がん性の限定的な証拠がある

いくつかの実験動物で発がん性が認められた。ヒトでは、ナフタレン製造に関わる作業員に、発がん性に関する限定的な証拠が認められる。ラットを対象にした限定的な経口投与試験の結果は陰性であった。

生殖毒性

成分:

フェンブコナゾール (ISO):

動物試験では、雌の生殖を阻害することを示した。

実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。動物試験で、催奇形性はなかった。

ソルベントナフサ:

動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

N-メチル-2-ピロリドン:

動物実験によると発育への悪影響が明確にある。

軽度ないし検知されない程度の母体毒性を示す高い用量で、N-メチルピロリドンにより、実験動物の胎児に毒性影響が認められた。

ロジン:

動物試験では、生殖を阻害しなかった。

動物試験では、胎児発育への影響は無かった。

ナフタレン:

入手可能データは生殖影響を決定するには不十分である。

動物試験で、催奇形性はなかった。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

動物試験では、親動物に対して重大な毒性を示した用量においてのみ、生殖に対する有害影響が認められた。

実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。動物試験で、催奇形性はなかった。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

製品:

呼吸器への刺激のおそれ

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回ばく露)を示さない。

ソルベントナフサ:

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回ばく露)を示さない。

N-メチル-2-ピロリドン:

暴露の主経路: 吸入

標的臓器: 気道

呼吸器への刺激のおそれ。

1-メチルナフタレン, 2-メチルナフタレン:

入手可能データは特定標的臓器毒性(単回ばく露)を決定するには不十分である。

ロジン:

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回ばく露)を示さない。

ナフタレン:

入手可能データは特定標的臓器毒性(単回ばく露)を決定するには不十分である。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン, 1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

暴露の主経路: 吸入

標的臓器: 気道

呼吸器への刺激のおそれ。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

製品:

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(反復ばく露)を示さない。

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

暴露の主経路: 経口

標的臓器: 肝臓

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。

反復投与毒性

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

備考: 動物では、以下の臓器に影響することが報告されている: 肝臓。

ソルベントナフサ:

備考:動物では、以下の臓器に影響することが報告されている:

肺。

消化器官。

甲状腺。

尿路。

これらの影響が生じる摂取量は、使用中の暴露による想定される摂取量の何倍も高い摂取量である。

ナフタレン蒸気やダストの繰り返し暴露で、ヒトに対し、白内障や他の眼の影響が報告されている。

N-メチル-2-ピロリドン:

備考:入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、顕著な有害影響は予期されない。

2-メチルナフタレン:

備考:動物では、臓器(肺)に影響することが報告されている。

しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。

ロジン:

備考:入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、顕著な有害影響は予期されない。

ナフタレン:

備考:動物にみられる所見には以下のものがある:

呼吸器への影響。

過剰暴露によって溶血を引き起こすことがあり、従って血液の酸素運搬機能が低下する。

ナフタレン蒸気やダストの繰り返し暴露で、ヒトに対し、白内障や他の眼の影響が報告されている。

ヒトがナフタレンを経口摂取すると、溶血性貧血が起こった。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

備考:動物では、臓器(気道)に影響することが報告されている。

誤えん有害性

製品:

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

物性上、誤えん有害性は低い。

ソルベントナフサ:

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

N-メチル-2-ピロリドン:

物性上、誤えん有害性は低い。

1-メチルナフタレン:

飲み込んで気道に侵入すると有害のおそれ。

ロジン:

物性上、誤えん有害性は低い。

ナフタレン:

物性上、誤えん有害性は低い。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

LC₅₀ (コイ) 7.73 mg/l (96時間)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (ミジンコ属) 4.84 mg/l (48時間)

藻類/水生生物に対する毒性:ErC₅₀ (藻類) 15.3 mg/l (72時間)

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 長期 (慢性):長期継続的影響によって水生生物に毒性。

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

魚毒性:LC₅₀ (ブルーギル) 0.68 mg/l (48時間) 流水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 203

LC₅₀ (ニジマス) 1.5 mg/l (96時間) 流水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 203

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) 2.2 mg/l (48時間) 止水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 203

LC₅₀ (塩水アミ) 0.63 mg/l (96時間)

方法:OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生生物に対する毒性:EbC₅₀ (緑藻) 0.33 mg/l (72時間) 止水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 201

EbC₅₀ (緑藻) 0.4 mg/l (72時間)

方法:OECD 試験ガイドライン 201

M-ファクター(水生環境有害性 短期 (急性)):1

魚毒性(慢性毒性):最大無影響濃度 (ニジマス) 0.32 mg/l (21d) 半止水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性(慢性毒性):最大無影響濃度 (オオミジンコ) 0.078 mg/l (21d) 流水式試験

M-ファクター(水生環境有害性 長期 (慢性)):1

微生物に対する毒性:EC₅₀ (活性汚泥) > 20 mg/l (3時間)

方法:OECD 209 試験

土中生物に対する毒性:LC₅₀ (ミミズ) > 50 mg/kg (14d)

地上生物に対する毒性:経口 LD₅₀ (コリンウズラ) > 2,150 mg/kg 体重

混餌 LC₅₀ (コリンウズラ) 4,050 mg/kg 餌

混餌 LC₅₀ (マガモ) 2,110 mg/kg 餌 (8d)

接触 LD₅₀ (ミツバチ) > 292 µg/bee (48時間) エンドポイント:死亡率

ソルベントナフサ:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

LC₅₀ (ニジマス) 3.0 mg/l (96時間) 止水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) 1.1 mg/l (48時間) 止水式試験

藻類/水生生物に対する毒性:EC₅₀ (緑藻) 7.9 mg/l (72時間)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性(慢性毒性):最大無影響濃度 (ミジンコ) 5.2 mg/l (21d)

エンドポイント:死亡率

方法:方法不特定

地上生物に対する毒性:備考:物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない(LC₅₀ > 5,000 ppm)。物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない(LD₅₀ > 2,000 mg/kg)。

混餌 LC₅₀ (コリンウズラ) > 6,500 ppm (5d)

経口 LD₅₀ (コリンウズラ) > 2,250 mg/kg

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 長期 (慢性):長期継続的影響によって水生生物に毒性。

N-メチル-2-ピロリドン:

魚毒性:LC₅₀ (ニジマス) > 5,000 mg/l (96時間) 止水式試験

LC₅₀ (ファットヘッドミノー) 1,072 mg/l (96時間) 止水式試験

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) > 1,000 mg/l (24時間) 止水式試験

方法:OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

藻類/水生生物に対する毒性:ErC₅₀ (緑藻) > 500 mg/l (72時間) 止水式試験

エンドポイント:生長率阻害

方法:OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性(慢性毒性):最大無影響濃度 (オオミジンコ) 12.5 mg/l (21d) 半止水式試験

方法:OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

1-メチルナフタレン:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

LC₅₀ (ファットヘッドミノ-) 9 mg/l (96時間)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) 1.2 - 1.4 mg/l (48時間)

2-メチルナフタレン:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

LC₅₀ (ニジマス) 1.5 mg/l (96時間)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) 1.5 mg/l (48時間)

ロジン:

魚毒性:備考:物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC₅₀/EC₅₀/EL₅₀/LL₅₀ > 100 mg/L)。

備考:物質は水生生物に対し危険性があるとは分類されない。(最も感受性の高い種で LC₅₀/EC₅₀/IC₅₀/LL₅₀/EL₅₀ が 100 mg/L 以上)

LL₅₀ (ゼブラフィッシュ) < 10 mg/l (96時間) 半止水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 203

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EL₅₀ (オオミジンコ) 911 mg/l (48時間) 止水式試験

方法:OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生生物に対する毒性:(緑藻) 1,000 mg/l (72時間) 止水式試験

エンドポイント:生長率阻害

微生物に対する毒性:EC₅₀ (活性汚泥) > 10,000 mg/l (3時間) 止水式試験

エンドポイント:呼吸速度

方法:OECD 試験ガイドライン 209

ナフタレン:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC₅₀/EC₅₀/EL₅₀/LL₅₀ 0.1~1 mg/L)。

LC₅₀ (ニジマス) 0.11 mg/l (96時間)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:EC₅₀ (オオミジンコ) 1.6 - 24.1 mg/l (48時間) 止水式試験

藻類/水生生物に対する毒性:ErC₅₀ (スケルトネマ・コスタウム) 0.4 mg/l (72時間) 生長率阻害

M-ファクター(水生環境有害性 短期 (急性)):1

魚毒性(慢性毒性):最大無影響濃度 (その他) 0.37 mg/l (40d) 流水式試験

エンドポイント:死亡率

M-ファクター(水生環境有害性 長期 (慢性)):1

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 長期 (慢性):長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

魚毒性:備考:物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性

の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

藻類/水生生物に対する毒性: EC₅₀ (緑藻) 2.356 mg/l (96時間)

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 長期 (慢性): 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

魚毒性: 備考: 物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す (試験した種のうち最も感受性の高い種では LC₅₀/EC₅₀ 1~10 mg/L)。

LC₅₀ (金魚) 12.5 mg/l (96時間) 流水式試験

方法: 方法不特定

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性: EC₅₀ (オオミジンコ) 6 mg/l (48時間) 止水式試験

方法: OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

EbC₅₀ (緑藻) 25 mg/l (48時間) エンドポイント: バイオマス

方法: OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性): 最大無影響濃度 (オオミジンコ) 0.4 mg/l (21d) 半止水式試験

エンドポイント: 子孫の数

方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 短期 (急性): 水生生物に毒性。

残留性・分解性

成分:

フェンブコナゾール (ISO):

生分解性: 備考: 物質は難分解性であると考えられる (環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

結果: 易分解性ではない。

生分解: 17% 曝露時間: 28d

方法: OECD テストガイドライン 211 あるいは同等のもの

備考:10-day Window: 不合格

光分解性:速度定数:9.7775E-12 cm³/s

ソルベントナフサ:

生分解性:備考:生分解は好气的条件(有酸素)で起こるであろう。

厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

生分解:30 - 41 % 曝露時間:28d

方法:OECD テストガイドライン 301D あるいは同等のもの

備考:10-day Window: 不合格

N-メチルー2-ピロリドン:

生分解:結果:易分解性。

生分解:91 % 曝露時間:28d

方法:OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

備考:10-day Window: 合格

含有量:30 mg/l

生分解:73 % 曝露時間:28d

方法:OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

備考:10-day Window: 非該当

生分解: > 90 % 曝露時間:8d

方法:OECD テストガイドライン 302B あるいは同等のもの

備考:10-day Window: 非該当

ThOD:2.58kg/kg

光分解性:試験タイプ:半減期(間接光分解)

感作性:OH ラジカル

速度定数:2.199E-11cm³/s

方法:推定値。

2-メチルナフタレン:

生分解性:結果:易分解性ではない。

備考:環境中の分解は遅いと考えられる。

1-メチルナフタレン:

生分解性:結果:易分解性ではない。

備考:物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

生分解:0-2% 曝露時間:28d

方法:OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

備考:10-day Window:非該当

ロジン:

生分解性:結果:易分解性。

備考:物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。

生分解:71% 曝露時間:28d

方法:OECD 試験ガイドライン 301D

備考:10-day Window:合格

ナフタレン:

生分解性:備考:好氣的静的試験条件での生分解は高い。(BOD20 or BOD28/ThOD > 40%)

生化学的酸素要求量(BOD):57.000% インキュベーション時間:5d

71.000% インキュベーション時間:10d

71.000% インキュベーション時間:20d

ThOD:3.00kg/kg

光分解性:試験タイプ:半減期(間接光分解)

感作性:OH ラジカル

含有量:1,500,000 l/cm³

速度定数:2.16E-11 cm³/s

方法:推定値。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

生分解性: 結果: 易分解性。

備考: 物質は最終的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では無機化が 70 % 超に達する。

生分解: 100 % 曝露時間: 1d

結果: 分解性なし

備考: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

含有量: 100 mg/l

生分解: 4 - 18 % 曝露時間: 28d

方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

備考: 10-day Window: 非該当

ThOD: 3.19 kg/kg

光分解性: 試験タイプ: 半減期(間接光分解)

感作性: OH ラジカル

速度定数: $1.670E-11 \text{ cm}^3/\text{s}$

方法: 推定値。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

生分解性: 結果: 分解性なし

備考: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

生分解: 0 % 曝露時間: 28d

方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

備考: 10-day Window: 不合格

生分解: 50 % 曝露時間: 4.4d

方法: 計算値

備考: 10-day Window: 非該当

生体蓄積性

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

生体蓄積性:種(ブルーギル) 生物濃縮因子(BCF):160 曝露時間 28 時間

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow:3.23

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

ソルベントナフサ:

生体蓄積性:種:魚類 生物濃縮因子(BCF):61-159

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow:2.9 - 6.1

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は高い。(BCF > 3,000、log Pow:5-7)

N-メチル-2-ピロリドン:

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow: - 0.38

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または log Pow < 3)

2-メチルナフタレン:

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow:3.86

方法:推定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

1-メチルナフタレン:

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow:3.87

方法:推定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

ロジン:

生体蓄積性:生物濃縮因子(BCF):8

方法:推定値

n-オクタノール／水分配係数(log 値):log Pow:1.9 - 7.7

備考:生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または log Pow < 3)

ナフタレン:

生体蓄積性:種:魚類 生物濃縮因子(BCF):40 - 300 曝露時間:28d

方法:測定値

n-オクタノール/水分配係数(log 値):log Pow:3.3

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

生体蓄積性:種:コイ 生物濃縮因子(BCF):33 - 275 曝露時間:56d

含有量:0.2 mg/l

方法:測定値

n-オクタノール/水分配係数(log 値):log Pow:3.63

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

生体蓄積性:種:ファットヘッドミノー 生物濃縮因子(BCF):161

方法:測定値

n-オクタノール/水分配係数(log 値):log Pow:3.42

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

1, 2, 3-トリメチルベンゼン:

n-オクタノール/水分配係数(log 値):log Pow:3.66

方法:測定値

備考:生物濃縮の可能性は中程度。(BCF:100-3,000、log Pow:3-5)

土壤中の移動性

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

環境中の分布:Koc:4,425

備考:土壤中移動性がわずかである(Koc 2,000~5,000)。

ソルベントナフサ:

環境中の分布:備考:データなし

N-メチル-2-ピロリドン:

環境中の分布:Koc:21

方法:推定値

備考:土壤中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壤からの蒸発は多くないと考えられる。

2-メチルナフタレン:

環境中の分布:備考:関連のあるデータは得られていない。

ロジン:

環境中の分布:Koc:5,357

備考:土壤中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc > 5,000)

ナフタレン:

環境中の分布:Koc:240 - 1,300

方法:測定値

備考:土壤中移動性が中程度である(Koc 150~500)。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン:

環境中の分布:Koc:720

方法:推定値

備考:土壤中移動性が小さい(Koc 500~2,000)。

1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

環境中の分布:Koc:741.65

方法:推定値

備考:土壤中移動性が小さい(Koc 500~2,000)。

オゾン層への有害性

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ソルベントナフサ:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

N-メチル-2-ピロリドン:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

1-メチルナフタレン, 2-メチルナフタレン:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ロジン:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ナフタレン:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン, 1, 3, 5-トリメチルベンゼン, 1, 2, 3-トリメチルベンゼン:

オゾン層破壊係数:備考:この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

成分:

フェンブコナゾール(ISO):

PBT および vPvB の評価結果:当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。当物質は、極めて高い残留性および極めて高い生物蓄積性(vPvB)であるとは見なされない。

ソルベントナフサ:

PBTおよびvPvBの評価結果:この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

N-メチル-2-ピロリドン:

PBT および vPvB の評価結果:この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

2-メチルナフタレン:

PBT および vPvB の評価結果:この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。

ロジン:

PBT および vPvB の評価結果:この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

ナフタレン:

PBT および vPvB の評価結果:この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

1, 2, 4-トリメチルベンゼン, 1, 3, 5-トリメチルベンゼン:

PBT および vPvB の評価結果:この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

その他:データなし

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使い切る。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 :クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ

国連番号 :3082(環境有害物質、液体)

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
陸上規制情報 : 消防法、道路法の規定に従う。

15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第22400号
消防法 : 第四類、第三石油類、非水溶性液体、危険等級Ⅲ
労働安全衛生法 : 変異原性の認められた化学物質(既存化学物質):ナフタレン
第18条の2(表示・通知対象物質):N-メチル-2-ピロリドン(政令番号588-2)
第18条の2(表示・通知対象物質):ロジン(政令番号632)
第18条の2(表示・通知対象物質):ナフタレン(政令番号408)
第18条の2(表示・通知対象物質):石油ナフサ(政令番号330)
第18条の2(表示・通知対象物質):メチルナフタレン(政令番号582-2)
第18条の2(表示・通知対象物質):トリメチルベンゼン(政令番号404)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
: 第一種指定化学物質 438 メチルナフタレン
: 第一種指定化学物質 302 ナフタレン
(2023年3月31日まで)
: 第一種指定化学物質 119 フェンブコナゾール
(2023年4月1日以降)
: 第二種指定化学物質 119 フェンブコナゾール
: 第一種指定化学物質 746 N-メチル-2-ピロリドン
: 第一種指定化学物質 691 トリメチルベンゼン
毒物劇物取締法 : 非該当

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。
使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献:1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法

- 2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
- 3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
- 4) GHS文書 改訂第6版(2015年)
- 5) コルテバ・ジャパン(株) デビュー乳剤 安全データシート
(2023年3月17日改訂版)

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間) 一般市民向け相談電話(無料) 072-727-2499

医療機関専用有料電話 072-726-9923

つくば(毎日9時~21時) 一般市民向け相談電話(無料) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。